



平成 25 年 4 月 9 日

各 位

上場会社名 株式会社 熊 谷 組
代 表 者 名 取締役社長 大田 弘
コード番号 1861
上場取引所 東証第 1 部

中期経営計画（平成 25～27 年度）の策定に関するお知らせ

当社は、平成 25 年度を初年度とする「中期経営計画（平成 25～27 年度）」を策定いたしましたのでお知らせします。

当社は、平成 22 年 5 月に「中期経営計画（平成 22～24 年度）」を策定し、「お客様から信頼される企業」を目指して業績向上に向けた諸施策にグループ一丸となって取り組んでまいりました。

しかしながら、計画の最終年度である平成 25 年 3 月期の業績は大幅な赤字が見込まれております。

こうした事態を重く受け止め、当社は先般、経営体制の一層の充実と強化を図るため新たな経営体制を発表いたしました。併せて、今般、当社が置かれている環境ならびに課題をあらためて認識し、現行の計画の実施状況を総括したうえで、「誠実な営業」「誠実な施工」「誠実なフォロー」という当社の強みに磨きをかけつつ、「収益力の回復」を最重要課題とする「中期経営計画（平成 25～27 年度）」を策定いたしました。

当社といたしましては、「全員参加の経営」をスローガンに本計画の達成に取り組み、一刻も早く収益力ある企業体質への転換を目指してまいりますので、皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上

< 本件に関するお問合せ先 >

株式会社 熊 谷 組
広 報 室 03-3235-8155
主 計 部 03-3235-8606
企 画 室 03-3235-2496



中期経営計画

(平成25～27年度)

～「全員参加の経営」で収益力ある企業体質へ～

平成25年4月

株式会社熊谷組

目次

1. 事業環境認識	P2
2. 経営課題・基本方針	P3
3. 主要数値目標	P4
4. 事業別方針	
① 国内土木事業	P5
② 国内建築事業	P6
③ その他の事業	P7
5. 経営インフラづくり	P8
6. グループ事業展開	P9

1.事業環境認識

社会の要請

- ◆ 東日本大震災からの復興
(復興道路、復興街づくり等)
- ◆ 安全・安心な国土づくり、地域づくり
(国土強靱化)
- ◆ 社会インフラ・建築ストックの老朽化対応
(社会インフラ・建築ストックの大更新)

社会の変化

- ◆ 少子高齢化・人口減少時代の到来
(人口集約化に向けた街づくり等)
- ◆ ライフスタイル・価値観が多様化
(新たな発想による付加価値の創造等)
- ◆ 国内建設市場の成熟化
(新たな事業方式の広まり、事業メニューの多様化等)

建設業の使命・役割の増大



将来への備えの必要性

2.経営課題・基本方針

目指す企業像

“ものづくり”から生まれる「品質」と「誠実な営業」「誠実な施工」「誠実なフォロー」で、
どこよりも信頼される企業

経営課題

建設本業での収益力の回復と将来にむけた収益基盤の整備

<計画最終年度:グループ売上2800億円、営業利益率2%>

基本方針

業務の原点回帰と基本動作の遂行徹底

- ◆利益管理体制の強化と質(利益)の確保
- ◆現場力(施工力)の強化
- ◆全員参加の経営による社員力強化

優位性を持つ市場の確立

- ◆既存市場での営業力・コスト競争力の強化
- ◆技術開発力の強化
- ◆ブルーオーシャンの開拓

環境に影響されにくい収益体質の構築

- ◆新たな事業分野・事業方式への取り組み
(事業メニューの多様化)
- ◆グループ連携の推進

大切にしている企業風土

スローガン

どんなに辛くとも諦めずに最後まで挑戦する

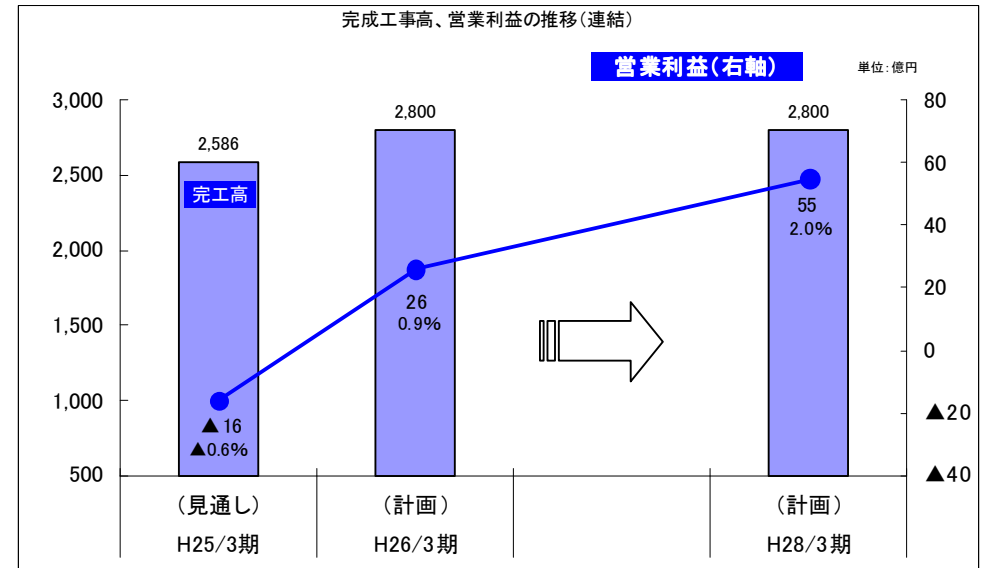
全員参加の経営

3. 主要数値目標

【連結】

	H25/3期 見通し	H26/3期 計画	H28/3期 計画
完工高	2,586	2,800	2,800
営業利益	▲ 16 ▲0.6%	26 0.9%	55 2.0%
経常利益	▲ 9 ▲0.3%	20 0.7%	48 1.7%

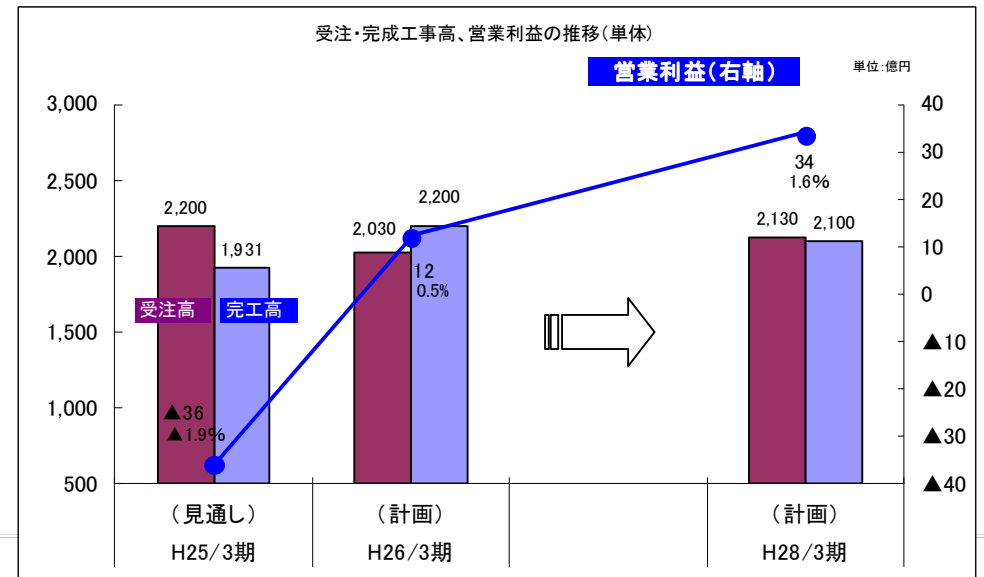
※ 見通し値は、H25.2.6 修正公表値



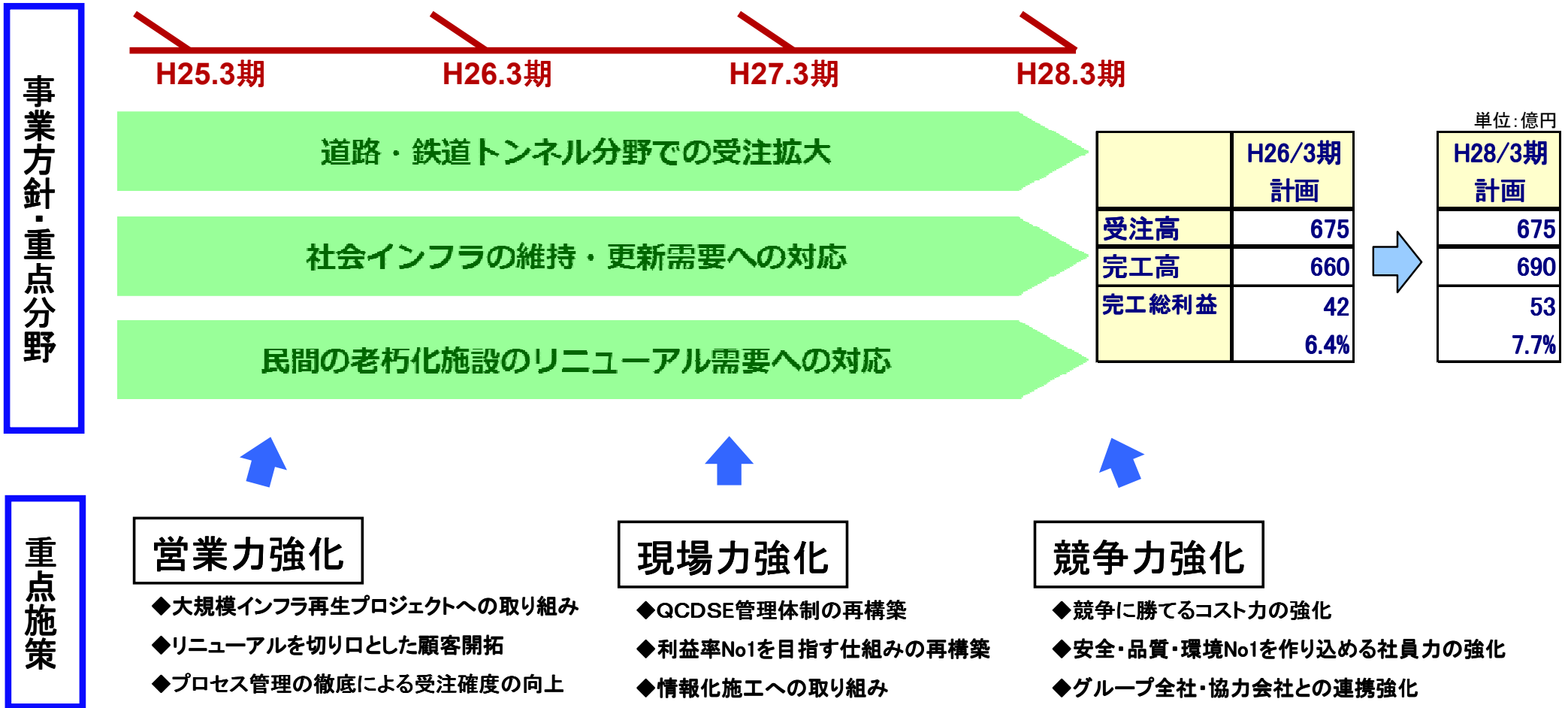
【単体】

	H25/3期 見通し	H26/3期 計画	H28/3期 計画
受注高	2,200	2,030	2,130
完工高	1,931	2,200	2,100
営業利益	▲ 36 ▲1.9%	12 0.5%	34 1.6%
経常利益	▲ 27 ▲1.4%	12 0.5%	31 1.5%

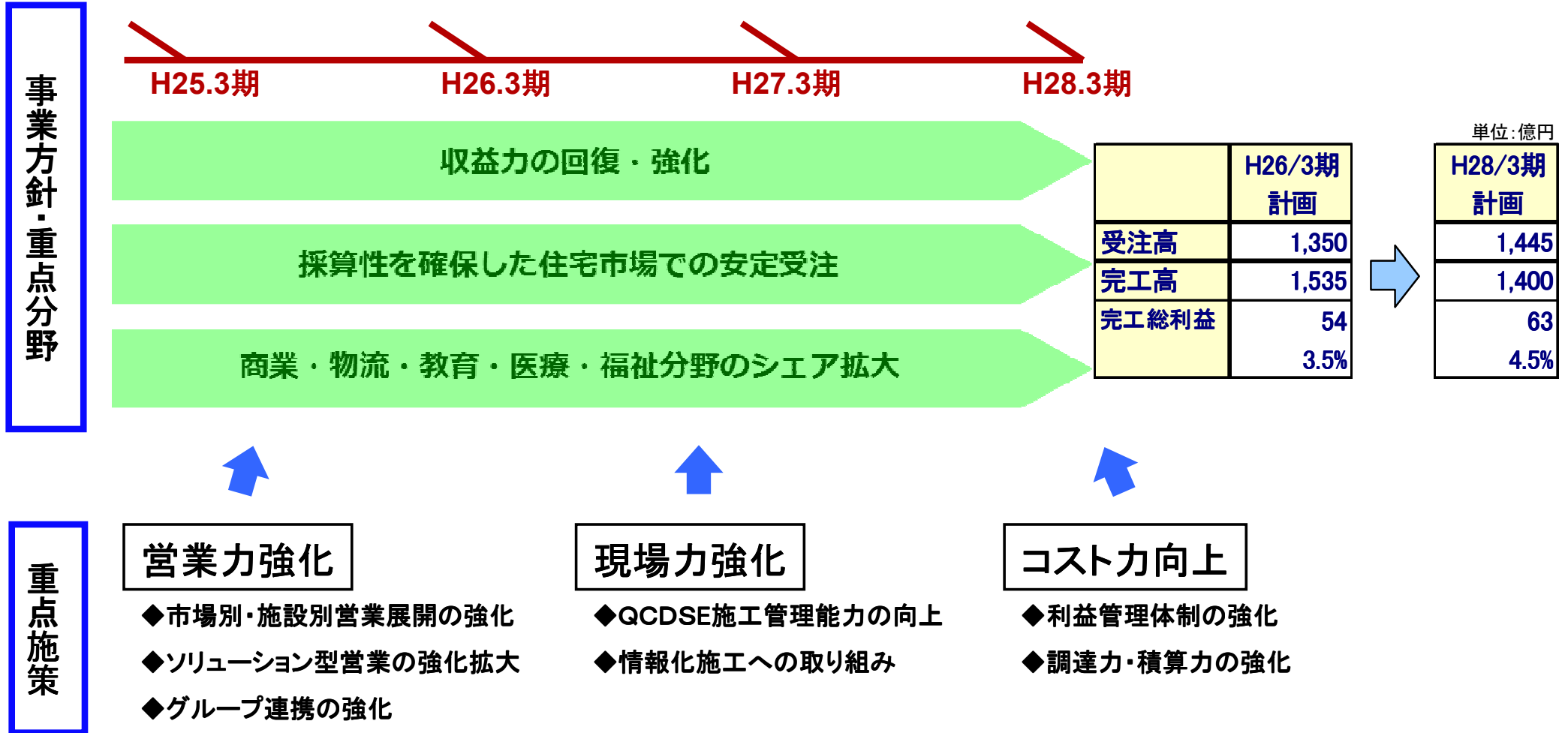
※ 見通し値は、H25.2.6 修正公表値



4.事業別方針(①国内土木事業)



4.事業別方針(②国内建築事業)



4.事業別方針(③その他の事業)

◆海外事業への取り組み

日系企業のベトナム進出支援

日系企業に対する建設技術の協力

ベトナム及び周辺地域の無償援助工事等

◆新たな事業方式/事業分野への取り組み

PFI/PPP事業

<官庁建築、土木・プラント事業、コンセッション型事業等>

多様な公共調達・契約方式

<DB方式、CM方式、包括契約方式等>

新しい事業分野

<再生可能エネルギー、環境事業分野等>

5.経営インフラづくり

経営課題

- ◆生産性の向上
- ◆CS・ESの実現
- ◆差別化の実現
- ◆付加価値の創造
- ◆収益体質への転換

《社員力向上》

- ◆生産力維持の人材確保
- ◆計画的な人材育成
- ◆納得感のある人事制度
- ◆労働環境整備

《技術開発力強化》

- ◆生産性向上技術の開発
- ◆インフラ大更新に備えた技術開発

《財務体質の強化》

- ◆有利子負債の計画的返済
- ◆株主資本の充実

6.グループ事業展開

各社が保有する技術・ノウハウ・商品・経営資源を相互に活用・補充しながら
グループが連携し総合力を発揮

■ガイアートT・K (売上高440億円、営業利益12億円 H25/3期予想)

事業内容: 道路舗装、道路運営

「道」づくりのプロとして他社と差別化できる「技術・製品・人材・設備」を一層強固にしながら、「道」の新時代につながる事業展開、技術開発を推進。道路運営事業も手掛けます。(白糸ハイランドウェイ)

■ケーアンドイー (売上高190億円、営業利益5億円 H25/3期予想)

事業内容: 建築及び設備リニューアル・リフォーム

建物の維持保全に加え、改良的な付価値のある「トータルリニューアルサービス」をよりきめ細やかに、スピーディーに、そして豊富な経験に基づく専門性の高い技術力をお客さまに提供します。

■テクノス (売上高50億円、営業利益0.5億円 H25/3期予想)

事業内容: 建設用資材の設計・製作、仮設リース、環境、土木リニューアル
グループ内唯一の機械工場として、日本・ベトナムでセグメント等建設資材を設計・製作。仮設リースを台湾他で展開し、新たな事業軸も確立。熊谷組とタイアップして土木リニューアルにも取り組みます。

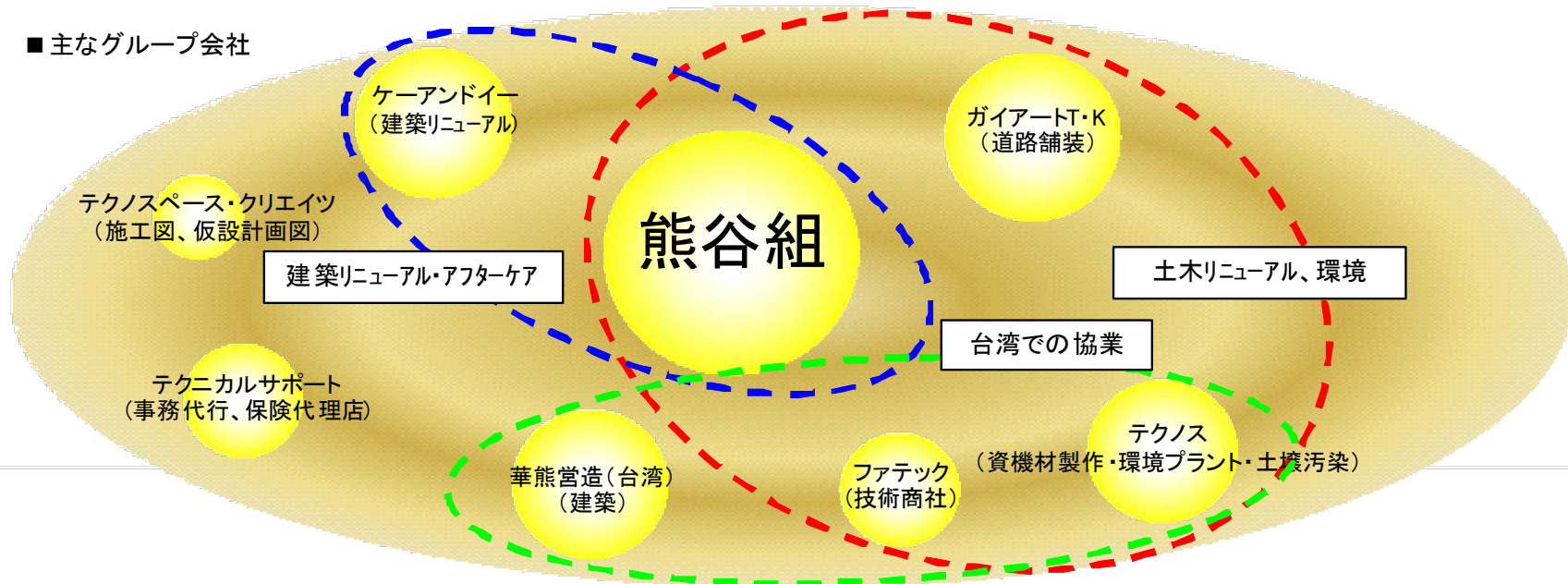
■華熊営造(台湾) (売上高70億円、営業利益2.2億円 H24/12期)

事業内容: 建築工事請負

住宅・事務所ビル案件を中心に、品質・安全に加えて熊谷組からの優れた技術の導入により他社との差別化を図り、安定した収益確保に取組みます。

※ 国内グループ3社は平成25年2月6現在の業績予想値

■主なグループ会社



お客様に感動を



(将来事象に関する注意事項)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、種々の前提に基づき策定したものでありますが、将来の業績等を保証するものではなく、経営環境の変化等により変動する可能性がありますことをご承知おきください。

熊谷組

